

### ■米国：コネチカット州、電力自由化による小売市場競争が「成熟」段階に

2010年12月12日付の報道によると、コネチカット州公益事業委員会のデルゴッポ委員長は「同州の小売電力市場は、新規参入を維持・促進するのに十分な域にまで競争環境が整った」と発言した。同州の小売電力自由化は2000年7月に始まり、供給先を変更しない需要家向けの料金上限措置を2006年まで実施していたが、その解除後は化石燃料価格の高騰等を受け料金が大幅に上昇し、需要家の供給事業者変更が進んだ。報道によると同州で既存の2大電力会社（Connecticut Light & Power 社、United Illuminating 社）以外から電力供給を受けている需要家数は55万軒（州全体の家庭用・商工業用需要家数の約36%）を超え、2009年の2倍以上となり、大口需要家で90%、小口需要家では50%が新規参入者に供給先を変更している。同委員長は、「2009年の家庭用電気料金支出は2億5,000万ドル低下した。コネチカット州はニューイングランド地域で電気料金が低下している唯一の州である」と、自州の電力小売自由化の成果を強調している。なお、同州の小売電気料金の水準は全米でも高く、エネルギー情報局（EIA）の2009年統計（全需要家）によると、ハワイ州（21.21セント/kWh）に次いで2番目に高い18.06セント/kWhとなっている。